

1. 主な研究内容について

高齢者の運動機能を通じた介護予防研究を行なっている。

- 1) 地域在住高齢者に対しては、高い生活機能を維持するために、生活機能低下の予測因子を運動機能、特に歩行機能 mobility の要素に注目して研究を行っている。
- 2) 軽度要介護者に対しては、通所サービスの集団プログラムに資する研究を行っている。実施上の安全性と効果的な機能改善を両立させる運動負荷・要素について検討し、座位でのトレーニングや治療的レクリエーションを検討している。
- 3) 施設高齢者に対しては、リハビリテーションと生活意欲の関係について検討を行っている。

2. 主な共同研究先

大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室、滋賀医科大学社会医学講座衛生学部門、大阪市立大学生活科学研究科、堺市、羽曳野市、大阪府立公衆衛生研究所、医療法人健和会奈良東病院グループ

3. 今まで指導した学位論文名

<博士論文>

2017 年度：『Tailored education program preventing falls for discharged older patients in acute care hospital』

2016 年度：『Comprehensive study for preventing falls in Long-Term Care Health Facility』

2014 年度：『Falls prediction in community-dwelling older adults: a dual-task study using an extended walking distance』

『Increased push-off improves gait in children with cerebral palsy』

<修士論文>

2017 年度：『回復期リハビリテーション病棟における高齢脳卒中患者の ADL 改善度と在宅復帰の関連性』

2016 年度：『慢性期脳卒中患者における歩行の非対称性と二次障害および活動との関連について』

2015 年度：『The effects of trunk exercise on physical function recovery for proximal femoral fractures』

『Relationship of going outdoors before hip fracture and functional recovery』

2014 年度：『軽度要介護者の骨密度と活動量に関連する要因』

2013 年度：『座業時間と身体活動量が専業主婦の健康状態に及ぼす影響』

2012 年度：『車椅子使用者の転倒リスク因子とアセスメントスコアシートの開発』

『ニュータウンの賃貸集合住宅に居住する男性の外出頻度と近隣環境』

4. 主な論文

- Ueda T, Higuchi Y, et al: Tailored education program using home floor plans for falls prevention in discharged older patients: a pilot randomized controlled trial. Arch Gerontol Geriatr. 71:9-13, 2017
- Imaoka M, Higuchi Y, et al: Low-frequency Exercise and Vitamin D Supplementation Reduce Falls Among Institutionalized Frail Elderly. Int J Gerontol.10:202-206, 2016
- Hirashima K, Higuchi Y, et al: Dual-tasking over an extended walking distance is associated with falls among community-dwelling older adults. Clin Interv Aging. 10:643-648, 2015
- 樋口由美, 岩田晃, 他: 移動能力と IADL を反映する座位での体幹機能評価の有用性. 日本老年医学会雑誌, 49(4), 449-456, 2012
- Higuchi Y, Watanabe M, et al: Mobility assessments as predictors for decline of higher-level functional capacity in community-dwelling elderly. Bulletin of the Osaka Medical College, 55:31-38, 2009

5. 現在の指導している大学院生数

M1 : 2名, M2 : 1名, D1 : 2名, D3 : 3名

6. どのような大学院生の受け入れを希望するか?

1 で述べた研究内容に興味をもって、現場に役立つ研究に真摯に取り組んでみようと考える方を希望します。
社会人の方は、月曜日の日中に登校できることが条件となります。